

六年生 詩

(教科書 光村)

# 生きる

谷川俊太郎

第一時 (二時間扱いの第一時)

## 目標

・ 詩「生きる」の楽しさを知り、暗唱しようとする。

- 準備 (教科書と鉛筆一本 視写用紙)
- 想像・連想しましたか。感想は。
- 〈区画〉 一連一区画で五区画
- 一 よむ (音読 五名 各連一名ずつ)
- 席順に、大きな声でゆつくりと読む。
- 聞き手は、立腰、集中して聴く。
- 読後、読み手と聞き手を評価する。
- 二 とく (読後感の整理の話し合い)
- 題目 (詩の輪郭を確認する)
  - (生きる 谷川俊太郎) と板書
  - 各連の書き出しの工夫 (繰り返し)
  - 頭韻と脚韻、体言止の効果、リズム
  - 「生きる」と「生きている」
- ◎ ひびき (詩の種 || 気付き・発見の予想)
  - 生きている (今) 生きる (先) 決意
  - 二連の対象 (美しいもの) 気付き
  - 四連の対象 (いま) 気付き
- 手引き (視写の指示) プリント配布
  - 一、四連の気付きを考えながら視写

三 よむ (手引きに従い黙読)

四 かく (視写 教師も板書 工夫して)

○ しっかりとつきりと視写

○ 机間巡視して書きぶりを確認し評価

五 よむ (音読 二名 連一名ずつ)

六 とく (板書部分について話し合う)

○ 語義 (難しい語句の解消)・区分

二連 (それは ミニスカート ↓ 家庭科

すべて 出会う かくされた

美しい 注意深く しばむ)

四連 (どこかで 産声 傷つく

ぶらんこ 過ぎてゆく)

◎ 心 (問と答、答えを二区分)

〈二連〉

・ 生きていることの明 || 美しい

・ 暗 || かくされた悪

・ どう生きるか ↓ 出会う、こぼむ

・ 詩の種は、答えのどっち

・ かくされた悪 ↓ プラネタリウム

〈四連〉

・ 現実 || 地球全体 || 同時 || 一枚の絵

・ つい忘れていた ↓ 時間の経過

・ 詩の種は。(詩には、飛躍がある)

○ 余韻 この詩を覚えよう。

七 よむ (全員で黒板の詩を音読)

・ 指音読 (鞭の指揮で音読)

・ 暗唱 (最初の字か漢字を残して)

〈板書事項〉

—— 生きている 今

—— 生きる 先

—— た 前

谷川俊太郎

## 問

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

プラネタリウム

ヨハン・シュトラウス

ピカソ

アルプス

すべての美しいものに出会う

そして

かくされた悪を注意深くこぼむこと

## 2 美しいもの

## 4 いま (時間)

生 ——

い ——

いま遠くで犬がほえる ——

地球が回っている ——

どこかで産声があがる ——

兵士が傷つく ——

ぶらんこがゆれている ——

いまが過ぎてゆくこと

第二時（二時間扱いの第二時）

目標

・詩「生きる」の構成が分かり、暗唱できる。

- 準備（教科書と鉛筆一本 視写用紙）
- 暗唱できそうかな。
- 一よむ（音読 五名 各連一名ずつ）
- 読（席順間 声）聞（立腰 静）
- 読後、読み手と聞き手を評価
- 二とく（復習と本時へつなぐ話し合い）
- おさらい（前時の復習）
  - ・四連↓（4 時間）
  - ・地球上 今 起きていること
  - 代表 五つ ←
  - ・何に気づいたか（過ぎる）どうする！
  - ・二連 どう生きたいと決意した
  - ・美しいもの↓出合う
  - ・悪↓こばむ・注意深く 悪は←
  - ・美しいものにかくされている。
  - ・美の代表 五つ 外来語↓（2 文明）
- ◎ 承接（前を受けて本時につなぐ）
  - ・三連↓感情 一連↓感覚 五連↓自然
  - ・作者の工夫 一から五連の並べ方
- 手引き（視写 一、三、五連）
- 一、三、五連の気付きを考えながら。
- 三よむ（手引きに従い黙読）
- 四かく（視写 教師も板書 工夫して）
- しっかりと書きりと視写
- 机間巡視して書きぶりを確認し評価

- 五よむ（音読 三名 連一名ずつ）
- 六とく（板書部分について話し合う）
- 語義（難しい語句の解消）・区分
- 一連（木もれ陽 ふつと あなた）
- 三連（送りがな 自由）
- 五連（はばたくとどろくはう 愛する ぬくみ いのち）
- ・区分 各連（問と答、答を二区分）
- ・五連は答え二区分（重なり）

◎ 心（詩の種々気付きの確認）

- （三連）
  - ・何の自由が大事だと心
  - ・心の自由⇨自分で決め、結果責任も
- （二連）
  - ・一連での自由⇨手をつなぐ
- （五連）
  - ・五連での自由（愛）
  - ・五連での気付き 人を愛する⇨自然
  - ・愛の気付きと同時に「手のぬくみ」
  - ・「愛」⇨「手のぬくみ」で
  - ・実感できなのが「いのち」
  - ・「生きる」⇨「いのち」の詩
- 余韻 谷川さんの詩は、すごいなあ。
- 七よむ（全員で黒板の詩を音読）
- ・指音読（指揮棒に合わせて音読）
- ・暗唱（最初の字か漢字を残して）

（板書事項）

